

育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) ・二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に次第に着目する。  
・基本的な図形と関連して角について知る。
- (思・判・表) 図形を構成する要素に着目し、構成のしかたを考えるとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形としてとらえる。
- (学びに向かう力等) 三角形に関心をもつとともに、身の回りから三角形を探したり、進んで調べたり、比べたりしようとしていたり、三角形を敷き詰める活動を楽しもうとしていたりする。

ICT活用のポイント

- ・児童一人一人に自分なりの考えをもたせることができる。
- ・簡単に考えを共有することができ、相違点や類似点を考えさせる時間を確保できる。

【つかむ】

ストローで三角形を作り、本時の見通しをもつ。  
作った三角形をどのように仲間分けしたらよいだろう

【追究する】

- ・構成要素や図形の性質に着目して、いろいろな三角形を、自分なりに仲間分けする。
- ・どんな分け方をしたか、考えを比較する。

【まとめる】

辺の長さの違いに着目し、三角形を分類する方法を全体で確認しながら、考えを共有する。

事例の概要

- ストローで作った三角形と同じ三角形を学習支援ソフト内の様々な三角形と比べ、仲間分けする（個の活動）
- ノートにまとめた仲間分けの結果を学習支援ソフトでモニターに映し、根拠を問う。

【事例におけるICT活用の場面①】

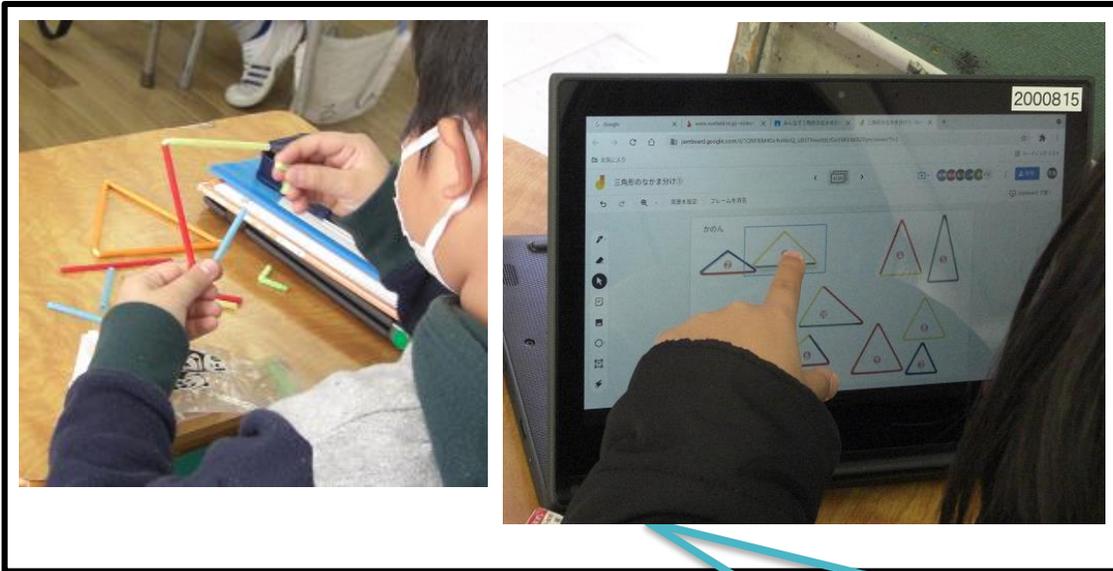
- 学習支援ソフト上のワークシートで、図形を操作する（指で動かす）ことで、自分なりに三角形を仲間分けする。
- 学習支援ソフトを通して個々のワークシートを提出し、比較して相違点や類似点を見いだす。

【事例におけるICT活用の場面②】

- モニター上で学習支援ソフトを用いて、全体で仲間分けをし、根拠を確かめながら、考えを共有する。

# 【算数・小3・「三角形と角」】②

## 【事例におけるICT活用の場面①】



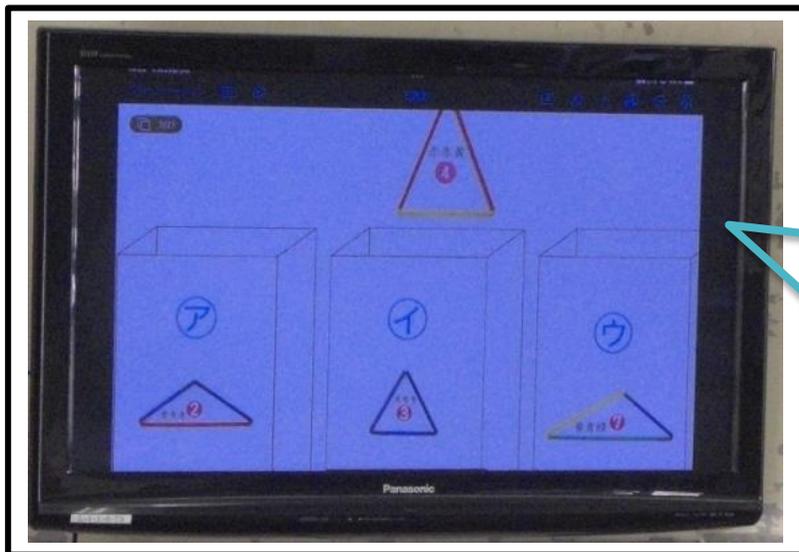
つかむ段階で、長さの違うストローを組み合わせることで三角形を作らせることにより、いろいろな三角形ができることを意識づけていた。

さらに、その三角形を学習支援ソフト内のワークシートで、一人一人に仲間分けをさせた。作った三角形よりも簡単に移動することができるので、児童一人一人が試行錯誤しながら、自分の考えをもつことができていた。

ワークシートは学習支援ソフトを通して提出するので、友達の考えと比較することができ、教師を介して対話が生まれていた。自分の考えはノートにもまとめ、あとで振り返れるように配慮していた。

具体物から半具体物へ。  
指での操作なら3年生でも簡単。

## 【事例におけるICT活用の場面②】



比較した考えを、再度全体で確認。ここでも根拠を確かめながら考えを整理していく。

比較・検討の後、学習支援ソフトを通して、全体で仲間分けの方法を確かめた。どのグループの仲間にするかを答えさせる際、根拠を問うことで、辺の長さの違いに着目して分類することを押さえながらまとめにつなげていた。

児童一人一人が具体物や半具体物の操作を行っていたことで、構成要素を実感を伴って意識しながら三角形の性質を捉えることができていた。